

## 第24回宇宙安全保障部会 議事要旨

### 1. 日時

平成29年10月30日（月） 10:00～12:00

### 2. 場所

内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

### 3. 出席者

#### (1) 委員

中須賀部会長、片岡部会長代理、青木委員、遠藤委員、折木委員、久保委員、白坂委員、鈴木委員、山川委員

#### (2) 事務局

宇宙開発戦略推進事務局 高田事務局長、佐伯審議官、山口参事官、行松参事官、高倉参事官、佐藤参事官、滝澤参事官、津井企画官

#### (3) 関係省庁等

内閣官房国家安全保障局 伊藤審議官

外務省総合外交政策局宇宙室 泰松室長

スカパーJ S A T株式会社宇宙・衛星事業本部 石井宇宙・防衛事業部長、高橋顧問

### 4. 議事要旨

#### (1) 宇宙基本計画工程表の改訂について

工程表に基づき、事務局より説明を行った。委員から以下の意見があった。

(以下、○意見等)

- 工程表6「即応型の小型衛星等」、工程表20の「即応型の小型衛星等の打上げシステム」について、
  - ・ 民間の衛星情報を積極的に活用する等、宇宙政策をトータルで考える中で即応型の小型衛星等を考えることが必要である。
  - ・ 関係部局等が即応型小型衛星の運用ニーズ等についてイメージを図ることが重要である。
- 工程表15「Xバンド防衛衛星通信網」について、米国等との通信衛星の共同運用・使用の検討やP F I方式の見直しの検討等も必要になるのではないか。
- 工程表24「宇宙システム全体の機能保証強化」について、米国の机上演習へ参加を経験し、将来日本で実施する机上演習に繋げることが重要である。

(2) 宇宙システムの脆弱性評価方法の検討状況について

資料に基づき、事務局より説明があった。委員から以下の意見があった。

(以下、○意見等、●事務局の回答)

- 関係各省自らの評価に加え、ある程度第三者による評価も入れるべきではないか。
- 今回は脆弱性評価の第一歩であり、評価の視点を提供して関係各省自らが評価を行うこととしている。
- 関係各省において、機能保証強化のための対策等に関する知見の蓄積を行う仕組みを作ることが必要である。

(3) 米軍の軍事通信衛星について

資料2に基づき、スカパーJ S A Tより、米軍の軍事通信衛星について説明があった。委員から以下の意見があった。

(以下、○意見等、●スカパーJ S A Tの回答)

- SMC Pathfinder について、米軍の商用衛星利用の割合は今後どのように推移していくのか。
- 今後5年間で68%程度まで増加する見込みである。
- SMC Pathfinder の企業側にはどのような利点があるのか。
- 企業側は単年度で見れば調達価格の低下となるが、5年から10年という長期間における調達の見通しが立つという利点がある。

以上